

日本聖公会神戸教区

各教会・伝道所の皆さまへ

「新型コロナウイルス対策」第10信

教会活動の自粛基準の改定

2020年11月10日

神戸教区主教 オーガスチン小林尚明

主の平和が皆さまの上にありますようにお祈りいたします。

コロナウイルス感染第二波が全国に広まり、収束の見通しもたない状況です。その中にあっても「聖餐式に出席し、陪餐したい」という信徒の皆さんの切なる声を聞きます。そこで、10月29日（木）対策室長瀬山会治司祭と松田宣子室員に、神戸大学大学院医学研究科教授（微生物感染症学講座感染治療学分野）岩田健太郎先生と面談していただきました。そして、その面談の報告書を頂きました（別紙送付いたします）。

岩田先生のお話では、「新規感染者『10人』とか『20人』というのは、感染の傾向を見るためには重要な数字であるけれども、聖餐式の陪餐の可否についての基準と考える必要はない。感染防止策を取ったうえでの陪餐は問題ない。それよりも三密を避け、感染防止の徹底が大切」とのことです。

そこで、今回「ウイルス感染症拡大における教会活動の自粛基準（7月31日付）」を改訂いたします。改定の内容は、三密の回避と消毒の徹底による陪餐基準の緩和です。同基準の「牧会上の注意事項」をしっかりと確認ください。また、「新型コロナウイルス感染症防止対策のガイドライン（改定）5月31日付」も併せて確認ください。

感染に十分注意しつつ、私たちクリスチャンの命である礼拝を大切にしていきたいと思えます。尚、陪餐に伴い出席者が増えるようでしたら、礼拝の回数を増やすなどの検討をお願いいたします。

信徒及びそのご家族の皆さまに感染者が出た場合、至急教会にお知らせください。そして、牧師は信徒・教役者に感染者が出た場合、教区へ直ちに連絡してください。対応を協議して指示を出します。よろしく申し上げます。

今回のコロナウイルス感染のため逝去された方々の魂の平安を祈るとともに、この社会を支える為、献身的に奉仕くださっている全ての方々に、神様からの導きと励まし、祝福をお祈りいたします。